

ポスターセッション (P - 物理化学処理 - 1~9)

物理化学処理については9件の発表があった。

会場を訪れた最初の印象では、物理化学処理のポスターを見に来てくれる方々が少なく、他とくらべてやや盛り上がり欠けると著者は感じた。

しかし発表されたタイトルと内容を拝見すると、(1)シリコン膜を用いて水中の難揮発性物質を分離回収しようとする新しい試み、(2)下水汚泥脱離液に鉄電解法を適用してリンを回収することについての検討、(3)人尿を電解処理することによって尿素分解酵素を不活性化して人尿をフラッシュ水として再利用する提案、(4)豚舎汚水からのリンの除去設備の3年間の実証試験結果、(5)酸化チタンを触媒として過酸化水素を用いる酸化反応の報告、(6)上下水処理水の浄化に用いられるオゾンを発生させる電極についての検討、(7)水中に残留する抗生剤のオゾン分解の報告、(8)ステンレス鋼等の表面処理工程から排出される酸洗排水の処理と有価物の回収についての検討、(9)畜産排水処理水中の色度とCOD成分の報告などであり、その多くが現場でのニーズを踏まえて問題点を解決しようとしていることに特色がある。一例をあげると、(4)は実際の豚舎汚水を用いて当該設備の運転性能を確認しようとしたものであり、3年半にわたる実証試験の結果、処理性能に季節による変動のないことを明らかにし、簡易なpH上昇手段としてのばっ気法の有効性を実証し、またニガリ液添加による処理性能の向上を確認している。河川中流域における大きな負荷源でかつ対策が難しい豚舎排水の処理技術として、実用化直前にあると言えよう。その意味では、このセッションに派手さは少ないかも知れないが、充実した報告が多かったと感じた。

ポスターセッション全体での問題点であるが、会場が寒い、ポスターとポスターの間隔が狭い、などの不満が聞かれた。またポスターの前に説明者が見あたらず、説明が聞けないこともあった(他のポスターを見に行っていたなどいろいろな事情はあろう。なお演者にリボンをつけてもらえれば、どの人に聞いたらよいかすぐわかる。)。また演者からは、ポスターを貼る場所を見つけにくい、昼食の時間がない、他のポスターを見ることができない、などの不満が聞かれた。これらについては何らかの工夫が必要ではないだろうか？

(神奈川工科大学・工 菊地 幹夫)